

2018年8月8~9日

翁長雄志沖縄県知事死去（時事、共同、朝日、琉球新報、
沖縄タイムス、NHK、在京キ一局）

翁長雄志氏が死去、67歳＝沖縄知事、辺野古反対派の象
徴



米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の名護市辺野古移設の反対派の象徴的存在だった沖縄県知事の翁長雄志（おなが・たけし）氏が8日午後6時43分、膵臓（すいぞう）がんなどのため同県浦添市の病院で死去した。67歳だった。4月に膵臓がんの切除手術を受け、治療しながら公務を続けていたが、7日に体調が急変し、意識混濁の状態となっていた。葬儀の日取りなどは未定。

辺野古移設をめぐる政府と激しく対立してきた翁長氏が死去したことで、移設問題の行方に影響するのは確実だ。公職選挙法は、知事死去の場合の選挙日程について、県選挙管理委員会への死亡通知から50日以内に実施すると規定。11月に予定されていた知事選は前倒しされ、9月に行われる見通しだ。

翁長氏は那覇市出身。沖縄県議や那覇市長を歴任。自民党県連幹事長も務め、保守政治家として活動していたが、自民党とたもとを分かち、2014年の知事選に普天間移設反対を掲げて立候補し、初当選した。

知事就任後は、前知事の辺野古埋め立て承認を取り消すなど知事権限を行使して政府に対抗した。法廷闘争を繰り広げ、一時は工事停止に持ち込んだが、最高裁が翁長氏の承認取り消しを「違法」と判断。その後は、政府が工事を進め、移設阻止は困難との見方が広がっていた。

翁長氏は今年7月、前知事による埋め立て承認を撤回する意向を表明し、手続きに入ったばかりだった。翁長氏の体調急変を受け、謝花喜一郎副知事が8日午後5時から記者会見し、同日以降は自身と富川盛武副知事が知事の職務代理を務めると発表。4日に翁長氏本人から、がんの肝臓転移を聞いたとも明かした。

承認撤回に関する今後の手続きに関し、謝花氏は8日深夜、防衛省沖縄防衛局の弁明を聞く「聴聞」は予定通り9日に行くと記者団に説明した。撤回の正式決定について、県は職務代理でも可能との認識だ。

翁長氏は、知事2期目を狙うかどうかを明確にしていなかったが、県政与党の社民党や共産党などは立候補を期待していた。

◇翁長知事と普天間移設をめぐる動き

2014年11月 沖縄県知事選で米軍普天間飛行場の名護市辺野古移設反対を掲げた翁長雄志氏が初当選

15年10月 翁長知事が埋め立て承認取り消し決定

11月 国が埋め立て承認取り消し撤回を求め代執行訴訟を提起

16年 1月 代執行訴訟で裁判所が国と県に和解勧告

3月 国と県の和解成立

国が翁長知事に是正指示

7月 国が是正指示に従わない翁長知事の違法性を確認する訴訟を提起

12月 最高裁で国勝訴が確定

17年 4月 国が護岸工事着手

7月 県が工事差し止めを求め国を提訴

18年 5月 翁長知事が膵臓（すいぞう）がんを公表

7月 翁長知事が埋め立て承認撤回を表明

8月 翁長知事が死去（時事通信2018/08/08-23:23）

移設反対派、後継選定急ぐ＝政府・自民「吊い選挙」懸念
—翁長沖縄知事死去

膵臓（すいぞう）がんを患いながら、「反基地」を訴え続けた沖縄県の翁長雄志知事が死去した。知事就任以来、米軍普天間飛行場（宜野湾市）の名護市辺野古移設を阻止するため、国と激しく対立してきた。移設反対派は翁長氏の遺志を受け継ぐ候補者の選定を急ぐ。政府・自民党は知事選準備で先行するが、「吊い選挙」となることへの懸念が広がる。

「オール沖縄」と呼ばれる移設反対派は、翁長後継候補を擁立して知事選を勝利し、移設を阻止したい考え。翁長氏を支えてきた謝花喜一郎副知事や、野党の現職国会議員らの名前が取り沙汰されている。

共産党の小池晃書記局長は取材に対し「辺野古に新基地をつくらせないという遺志を受け継いで知事選に勝利し、翁長氏の無念に応えることがわれわれに課された責務だ」と語った。

ただ、候補者選定はこれからだ。翁長氏がこれまで知事選への対応を明言しなかった。翁長氏の再選出馬に期待していた移設反対派は、「白紙」からの選挙準備を迫られる。

一方、自民党沖縄県連は宜野湾市の佐喜真淳市長の擁立を既に決定。2月の名護市長選勝利を弾みにして、知事ポストを奪還したい考えだ。辺野古移設を推進する首相官邸も、佐喜真氏を全面支援する方針。政府は移設の既成事実

化を図るため、埋め立て海域への土砂投入を予定していた17日から開始する構えだ。

自民党には知事選が「甲い合戦」となれば、「極めてやりにくい選挙だ」として、不利に働くとの警戒感も出ている。防衛省関係者も「甲い選挙だと厳しい」と漏らした。(時事通信 2018/08/08-21:45)

「政治生命懸け闘った」＝基地移設反対の市民ら追悼一翁長沖縄知事死去



翁長雄志沖縄県知事の遺体を乗せ、病院を出発する車＝8日夜、沖縄県浦添市

米軍普天間飛行場の沖縄県内移設反対を訴え続け、政府と闘う姿勢を最後まで貫いた翁長雄志知事(67)。訃報を受け8日、反対運動をしている市民や翁長氏を支えた関係者からは追悼の声が上がった。

沖縄平和運動センターの山城博治議長(65)は「命をささげるように発言し、政府にもの申した。ショックが大きい」と声を落とし、「翁長氏の思いを託せる後継者を選び、次の知事選に取り組む」と話した。

米軍キャンプ・シュワブのゲート前で抗議を続ける金城武政さん(61)は「県民を動揺させないよう力の限りやっていた。政治声明を懸け、闘う姿勢や意思を伝えた本物の政治家」と語った。

翁長氏が入院していた同県浦添市の病院には同日夜、複数の関係者が訪れた。共産党の赤嶺政賢衆院議員(70)は「安らかな毅然(きぜん)とした姿だった。知事が残してくれたのは、沖縄の将来のために基地を残さないという信念。県民の大きな財産となっていると思う」と悼んだ。

翁長氏が那覇市長時代、秘書として仕えた同市の知念覚副市長(54)は「自分自身を冷静に見られる温かい人。目が360度付いているようだった」と振り返った。(時事通信 2018/08/09-00:04)

沖縄の声、本土に発信＝辺野古阻止へ執念一翁長氏

「オール沖縄」「イデオロギーよりアイデンティティ」ー。8日死去した翁長雄志知事が、沖縄県議や那覇市長時代から使った言葉だ。「基地は沖縄に置いておけばいい」という本土に対し、保守も革新も束ねて沖縄の声を発信し続けた。

旧真和志村(現那覇市)の村長だった父と、副知事を務めた兄。政治家一家に育った翁長氏は、父が選挙に負けた

直後に母親から「お前だけは政治家になるな」と言われたこともあったが、「保革の距離を縮めたい」との思いから、自身も政治の道を選んだ。

戦後の米軍施政下で、軍用地を米軍が一括して買い上げる1956年の「プライス勧告」。しかし、先祖の土地を守るため県民は勧告に応じず、米側のもくろみは空振りに終わった。「当時の人はのどから手が出るほどお金が欲しかったはず」。こう振り返る翁長氏は、「うやふあーふじ(祖先)」を心から誇りに思っていた。

米軍普天間飛行場(宜野湾市)の名護市辺野古移設に反対したのは、「これまで自ら差し出した土地はない」との思いからだ。自民党県連の幹事長も務めた保守政治家だったが、移設推進に転じた同党と決別。2014年の知事選に出馬し、勝利した。「辺野古に基地は造らせない」と叫び続け、「うちなーんちゅ(沖縄人)」の誇りを残すためだ。

移設をめぐる政府との法廷闘争では、「未来を切り開く判断を」と訴えたが、最終的には県が敗訴。強硬な政府を前に苦境に追い込まれた。それでも、隣臓(すいぞう)がんにもむしばまれた身体をむち打ち最後まで抵抗した。先月27日には、前知事による埋め立て承認の撤回を表明、「最後のカード」を切る執念を見せた。

ただ、抑止力の観点から辺野古移設の必要性を唱える政府の姿勢は変わらない。同日の会見で翁長氏は「日本は、米国に対して何も言えない状況がある」と苦しい胸の内を明かした。沖縄の声が本土に届かないもどかしさを抱え、翁長氏は旅立った。(時事通信 2018/08/08-22:47)

共・社「翁長氏の遺志継ぐ」＝野党から悼む声一沖縄知事死去

沖縄県の翁長雄志知事の死去を受けて8日、米軍普天間飛行場(宜野湾市)の名護市辺野古への移設に反対してきた野党陣営からは同氏を悼む声が上がった。

共産党の志位和夫委員長は談話で、「不屈の信念と烈々たる気概で、辺野古新基地反対を貫いた4年間の闘いに、深い敬意と感謝をささげる」と表明。9月に行われる見通しの知事選については「保守・革新の垣根を越えた共闘にこそ沖縄の未来がある。遺志を継ぎ闘う決意だ」と訴えた。

社民党の又市征治党首も「辺野古新基地建設に反対してきた遺志を引き継ぐためにも、知事選に勝利することを誓う」とのコメントを出した。(時事通信 2018/08/08-22:35)

米、後継知事選の行方注視＝辺野古移設で立場変わらず一翁長沖縄知事死去

【ワシントン時事】翁長雄志沖縄県知事の死去を受け、米政府は米軍普天間飛行場(沖縄県宜野湾市)の名護市辺野古移設への影響や、後任を選ぶ知事選の行方を注視するとみられる。ただ、移設を「唯一の解決策」とする立場から、計画の着実な実施を求めていく姿勢に変わりはない。

移設反対派の象徴だった翁長氏は、3月に訪米した際、米朝首脳会談に言及した上で移設計画について「15年から20年もかけて美しい海を埋め立てて、その時にどういふ国際情勢になっているか、全く見えていない」と批判。一方、自民党沖縄県連が知事選擁立を決めた佐喜真淳宜野湾市長は、5月の訪米で、米政府高官らに普天間飛行場の早期返還と地元負担軽減を申し入れていた。

米政府としては、沖縄で相次いだ米軍機の事故を踏まえて、県民感情を刺激するのを避けつつ、移設推進派知事への交代を期待しているのは間違いない。(時事通信 2018/08/08-23:52)

翁長氏の「貢献に感謝」＝米国務省

【ワシントン時事】米国務省の報道担当官は8日、翁長雄志沖縄県知事の死去を受け、取材に「遺族や県関係者、県民に対し、心からお悔やみを伝えたい」と表明した。その上で「日米関係に対する翁長知事の貢献に感謝しているし、沖縄県民にとって重要な問題をめぐる翁長氏との長年の協力をとても大切だと考えてきた」と指摘した。

翁長氏が反対してきた米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の名護市辺野古移設について、米政府は「唯一の解決策」として推進を求めてきた。報道担当官は「この困難な時期にあって、われわれの思いと祈りは翁長氏の家族や沖縄県民と共にある」と強調した。(時事通信 2018/08/09-06:29)

二階氏「沖縄問題に命懸けた」＝与党からも悼む声－翁長知事死去

沖縄県の翁長雄志知事死去を受け、自民党の二階俊博幹事長は8日、コメントを出し、「沖縄が抱える諸課題に命懸けで取り組む姿に、政治家、人間として通じるものを常々感じていた」と故人を悼んだ。

公明党の山口那津男代表も談話で、「沖縄の発展、振興のため懸命に努力された」と翁長氏の功績を評価。ただ、米軍普天間飛行場については「(名護市辺野古移設の)他に現実的な選択肢が見られない以上、丁寧に理解を求めていく」と表明した。

自民党幹事長在任中に翁長氏を含む「オール沖縄」勢力と対峙(たいじ)した石破茂氏は静岡県袋井市で記者団に「保守の思いを持ち、沖縄の在り方を一心に考えた政治家だった。立場を異にしたことは残念だ」と語った。

小野寺五典防衛相は「県議時代から長くお付き合いをさせていただき、さまざまな思い出がある」とのコメントを発表した。(時事通信 2018/08/08-23:24)

翁長雄志氏 写真特集



米軍普天間飛行場の名護市辺野古移設に関し、前知事による埋め立て承認の撤回手続きに入ると表明した沖縄県の翁長雄志知事＝沖縄県庁(2018年07月27日)【時事通信社】



沖縄全戦没者追悼式で平和宣言を読み上げる沖縄県の翁長雄志知事＝同県糸満市の平和祈念公園(2018年06月23日)【時事通信社】



沖縄県議会で答弁する翁長雄志知事＝那覇市(2018年06月19日)【時事通信社】



米軍嘉手納基地所属のF15戦闘機墜落を受け、記者団の質問に答える沖縄県の翁長雄志知事＝沖縄県庁（2018年06月11日）【時事通信社】



米軍普天間飛行場に隣接する小学校のグラウンドで落下物（米海兵隊CH53E大型輸送ヘリコプターの窓枠）が見つかったことを受け、学校に駆け付けた沖縄県の翁長雄志知事＝沖縄県宜野湾市（2017年12月13日）【時事通信社】



膵臓（すいぞう）に腫瘍が見つかって切除手術を受け、退院した沖縄県の翁長雄志知事（中央）＝同県浦添市（2018年05月15日）【時事通信社】



沖縄全戦没者追悼式の会場に到着した沖縄県の翁長雄志知事（右から2人目）と安倍晋三首相（同3人目）＝同県糸満市の平和祈念公園（2017年06月23日）【時事通信社】



ミス沖縄の島袋愛梨さん（左端）と嘉数晴花さん（同2人目）、沖縄県の翁長雄志知事（同3人目）から「かりゆしウェア」を贈られる安倍晋三首相＝首相官邸（2017年06月01日）【時事通信社】



米軍普天間飛行場の辺野古移設に反対する大会で、あいさつする沖縄県の翁長雄志知事＝那覇市（2015年05月17日）【時事通信社】



沖縄県知事選挙で勝利し、支援者らと手をつないで万歳する翁長雄志氏（中央）＝那覇市（2014年11月16日）【時事通信社】



会談で沖縄県の翁長雄志知事（左）と握手する安倍晋三首相。米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の名護市辺野古移設をめぐる代執行訴訟で、国と県の和解が成立した＝首相官邸（2016年03月04日）【時事通信社】



オープン戦の巨人－楽天戦の始球式で投球する那覇市の翁長雄志市長＝沖縄セルラースタジアム那覇（2011年02月20日）【時事通信社】



4期16年続いた親泊康晴市長の引退に伴う那覇市長選で、自民、公明、保守、無所属の会らの推薦を受け初当選し、支持者に囲まれ喜びの無所属新人で自民党県連幹事長の翁長雄志氏（右）＝那覇市（2000年11月12日）【時事通信社】

翁長雄志・沖縄県知事が死去 辺野古移設反対の象徴
共同通信 2018/8/9 00:30



死去した翁長雄志氏

米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の名護市辺野古移設阻止を掲げ、反対運動の象徴的存在だった沖縄県の翁長雄志（おなが・たけし）知事が8日午後6時43分、膵がんのため死去した。67歳。葬儀・告別式は未定。那覇市出身。翁長氏は普天間飛行場の辺野古移設を巡り、7月に埋め立て承認撤回方針を表明しており、9日に県が沖縄防衛局から弁明を聞く聴聞が実施される。死去は移設問題に大きく影響する可能性がある。

職務代理は副知事が務める。任期満了に伴う知事選が11

月投開票の予定だったが、9月中に前倒しされる見込み。



記者会見する沖縄県の謝花喜一郎副知事＝8日午後、沖縄県庁

政府、辺野古移設への影響注視 翁長知事死去受け
共同通信 2018/8/8 23:20

政府は、沖縄県の翁長雄志知事が8日に死去したことを受け、米軍普天間飛行場（宜野湾市）の名護市辺野古移設計画への影響などを注視する。ただ辺野古移設計画については日米同盟を堅持する立場から、引き続き推進していく方針だ。

防衛省幹部は「立場は対立していたが、翁長氏とは長く仕事を一緒にしてきた」と沈痛な表情。「今後についてはまだ何も言えない」と言葉を濁した。一方で別の幹部は「行政は行政で仕事を進めないといけない」と指摘した。

外務省幹部は、翁長氏が手続き開始を表明していた辺野古沖の埋め立て承認撤回に対し「これまでと何も変わらない」とした。

沖縄・翁長雄志知事が死去、67歳 9月にも知事選
朝日新聞デジタル 2018年8月8日 23時08分



7月

27日の会見での翁長雄志知事＝2018年7月27日午前10時47分、沖縄県庁、伊東聖撮影

膵（すい）がんを公表し、治療を続けていた沖縄県の翁長雄志（おながたけし）知事が8日午後6時43分、膵（すい）がんのため沖縄県浦添市の病院で死去した。67歳だった。米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の名護市辺野古への移設に強く反対し、政治的立場の違いを超えて移設反対派の支持を得てきた。葬儀の日程などは未定。

翁長氏は那覇市議や県議、自民党県連幹事長などを務めた後、2000年に那覇市長に初当選。4期目の途中の14年11月の県知事選で、辺野古移設反対を掲げ、当時の現職に約10万票の大差をつけて初当選した。知事就任後も一貫して移設反対を訴え続け、安倍政権と激しく対立してきた。

翁長氏の死去に伴い、11月18日投開票の県知事選は、前倒しされる。公職選挙法は、首長が死亡した場合、死亡から5日以内に職務代理者が選挙管理委員会に通知し、そこから50日以内に選挙を実施すると定めており、9月にも実施されるとみられる。

翁長氏の体調については、謝花（じゃはな）喜一郎副知事が8日午後5時から県庁で会見し、「意識が混濁状態になっている」と説明。8日以降は謝花氏と富川盛武副知事が知事の職務代理を務めると発表していた。謝花氏によると、翁長氏は7日から徐々に意思決定に支障が出てきていた。4日に謝花氏らと面会した際には、がんが肝臓に転移していると明かしたという。

翁長氏は4月に人間ドックを受けた際に精密検査が必要と指摘された。膵臓（すいぞう）に腫瘍（しゅよう）が見つかり、切除手術を受けた。再発を抑える抗がん剤治療を

受けながら県議会6月定例会や、6月23日の沖縄全戦没者追悼式に出席していた。

辺野古移設をめぐることは、7月27日に県庁で会見し、前知事による辺野古の埋め立て承認を撤回する手続きに入ると表明。土砂投入前の8月中旬に撤回に踏み切ることを目指し、作業を進めていた。9日には沖縄防衛局側の反論を聴く「聴聞」を予定通り実施する。謝花氏によると、撤回するかどうかの判断は、知事の職務代理者でも可能という。

一方、翁長氏は知事選について、2期目を目指して立候補するかどうか態度を明らかにしてこなかった。だが「移設反対」を掲げて保守中道層の支持を集められる候補は翁長氏以外いないとして、共産や社民など県議会与党は、9月県議会での立候補表明を前提に準備を進めていた。

翁長知事が意識混濁、副知事が代理へ 辞職は否定 朝日新聞デジタル 2018年8月8日 17時17分



翁長雄志知事＝2018

年7月27日

膵（すい）がんを公表し、抗がん剤の治療を続けている沖縄県の翁長雄志（おながたけし）知事（67）が意識混濁の状態になっている、と謝花喜一郎（じゃはなきいちろう）副知事が8日記者会見し、発表した。7日から徐々に意思決定に支障を来す状況になっていたという。辞職は否定した。謝花副知事が12日まで職務代理を務め、13日からは富川盛武副知事が務める。

翁長知事は、4月に人間ドックを受けた際に精密検査が必要と医師から指摘されて検査入院。膵臓（すいぞう）に腫瘍（しゅよう）が見つかり、摘出手術を受けた。その後、再発を抑える治療を受けながら、県議会の6月定例会や、6月23日の沖縄全戦没者慰霊式典に出席。7月27日には、県庁で記者会見し、前知事による辺野古の埋め立て承認を撤回すると表明。手続きを進めていた。

一方で、出席を予定していた北海道での全国知事会議や、今月1日からの東京での予算要請を体調を理由に取りやめていた。

11月18日に予定されている知事選では、翁長知事の共産、社民などの県議会与党が、翁長氏本人の立候補を前提に準備を進めている。だが、体調面への不安が浮き彫りになった形で、候補者選考への影響は必至だ。

自民党は、佐喜真淳（さきまあつし）・宜野湾市長の擁立をすでに決めている。

翁長氏の死去、シナリオ崩れた沖縄知事選「暗中模索だ」 朝日新聞デジタル 2018年8月8日 21時26分



沖縄全戦没者追悼式で、平和宣言

をのべる翁長雄志・沖縄県知事＝2018年6月23日、
沖縄県糸満市、竹花徹朗撮影



翁長雄志・沖縄県知事をめぐる動きと発言

14年11月	辺野古移設反対を訴え知事選に当選。「県民が私たちより先を行っていた。そこにならなくて、沖縄の政治が動き出した」
15年10月	辺野古の埋め立て承認を取り消す
12月	承認の取り消し撤回を求められた訴訟の初弁論。「日本に地方自治や民主主義は存在するのか。沖縄県にのみ負担を強いる日米安保体制は正常と言えるのか。国民すべてに問わなければならない」
16年12月	最高裁が埋め立て承認の取り消しを違法と判断、承認の効力が復活
17年4月	辺野古の自衛隊を埋め立てるための護岸工事が始まる
18年4月	脳腫瘍(すいぞう)に罹病(れいびょう)のようが見つかり、記者会見で手術を公表
7月	辺野古の埋め立て承認撤回を表明。「国はとんでもなく固い意志で、なにがなんでも沖縄に新辺野古基地を造ろうとする。だが、私みたらすると、美しい沖縄の海を埋め立てる理由がない」



米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の名護市辺野古への移設問題で、反対派の先頭に立ってきた翁長雄志知事（67）が死去した。辺野古の埋め立て承認を県が撤回して工事を止め、秋の知事選で争点にして翁長氏を立てて対抗するという反対派の筋書きは、見直しを迫られる。

「残念で残念で仕方ありません」

翁長氏が入院していた沖縄県浦添市内の病院を午後10時すぎに出た謝花（じゃはな）喜一郎副知事は、記者団に絞り出すように語った。

辺野古沿岸部への埋め立て用の土砂投入を阻止するため、翁長氏が先月末、埋め立て承認を撤回すると表明した矢先の急逝だった。謝花氏によると、4日に病室で会った際に翁長氏は、「一日一日公務に専念する。撤回については自分でしっかりやりたい」と話し、復帰に意欲を示していたという。

謝花氏が県庁で開いた記者会見で「意識が混濁している」と公表したのは、8日午後5時。そのときは、翁長氏から「抗がん剤の投与で、いろいろ状況に変化があるかもしれない。その場合は対応を頼む」と指示を受けていたと説明。「我々は一日も早い回復を期待している」と言及していたが、午後6時43分、翁長氏は息を引き取った。

4年前の知事選で「辺野古移設阻止」を掲げて勝利した翁長氏だったが、最近では政権側に押される展開が続いていた。国との裁判に2016年12月の最高裁判決で敗れて以来、現地では工事が着々と進んだ。

移設反対派が翁長氏に対応を求めて県庁内で座り込むなど、支持層からの突き上げも激しさを増していた。あまりに早く「撤回」に踏み切ると、国に対抗手段をとられ、選挙前に決着してしまいかねない。時機を慎重に計り、土砂投入直前で撤回を表明した。

反対派は厳しい状況に

翁長氏の任期満了に伴い11月18日に行われる予定だった知事選を見据え、翁長氏を支える政党や労組などでつくる「オール沖縄会議」も、そうした翁長氏の戦略を支持してきた。

翁長氏は4月に睨（すい）がんがわかって以来、抗がん剤での治療を続けるなど、健康を不安視する声は常にくすぶっていた。しかし、翁長氏は自民党県連幹事長や那覇市長を歴任した県政界の保守側の重鎮ながら、辺野古反対の旗を立てて知事選に立候補。保守・革新を超えて幅広い支持を集める「オール沖縄」を誕生させた立役者だった。

そうした経緯もあり、反対派の中では「翁長氏の代わりは翁長氏しかいない」（県政与党幹部）のが一致した見方だった。副知事の記者会見の直前にも、共産や社民など県政与党の国会議員や県議らが那覇市内で集まり、翁長氏再選を目指すことを確認し合ったばかりだった。

一方、翁長氏と対立する自民県連は先月、宜野湾市長の佐喜真（さきま）淳氏の擁立方針をすでに決定。県政奪還に向けて着々と準備を進めている。自民県連関係者は謝花氏の記者会見時点で「選挙が早まるかもしれない。怠りないよう準備をしたい」と語っていた。

知事選は死去に伴い前倒しされることになった。選挙に向けた動きは加速することになり、反対派は厳しい状況に

追い込まれている。照屋氏は「想定外の事態で候補者選定は暗中模索の状態だ。緊急事態である今こそ、一つにまとまらないといけない」。

ヤマトへの沖縄の複雑な思い代弁 県民の共感得た翁長氏

朝日新聞デジタル前那覇総局長・上遠野郷 2018年8月8日 22時36分



辺野古代執行訴

訟の第1回口頭弁論に出廷した翁長雄志・沖縄県知事(左)
＝2015年12月、福岡高等裁判所那覇支部

米軍普天間飛行場(沖縄県宜野湾市)の名護市辺野古への移設計画を推し進める政府に抵抗し、沖縄の立場を強調してヤマト(日本本土)の人々に訴える。翁長雄志(おながたけし)氏の死去は、そんな「オール沖縄」の結集軸が失われたことを意味する。

翁長氏は元々、政府との協調を重視する沖縄の自民党の重鎮だった。父も兄も保守政治家という一家に育ち、県議時代の1990年代末には普天間飛行場の県内移設を容認していた。

しかし、基地問題で揺れ動く沖…

沖縄・翁長雄志知事が死去、67歳 9月にも知事選

朝日新聞デジタル 2018年8月8日 23時08分



7月27日の会見での翁長雄志知

事＝2018年7月27日午前10時47分、沖縄県庁、伊東聖撮影

膵(すい)がんを公表し、治療を続けていた沖縄県の翁長雄志(おながたけし)知事が8日午後6時43分、膵(すい)がんのため沖縄県浦添市の病院で死去した。67歳だった。米軍普天間飛行場(沖縄県宜野湾市)の名護市辺野古への移設に強く反対し、政治的立場の違いを超えて移設

反対派の支持を得てきた。葬儀の日程などは未定。

翁長氏は那覇市議や県議、自民党県連幹事長などを務めた後、2000年に那覇市長に初当選。4期目の途中の14年11月の県知事選で、辺野古移設反対を掲げ、当時の現職に約10万票の大差をつけて初当選した。知事就任後も一貫して移設反対を訴え続け、安倍政権と激しく対立してきた。

翁長氏の死去に伴い、11月18日投開票の県知事選は、前倒しされる。公職選挙法は、首長が死亡した場合、死亡から5日以内に職務代理者が選挙管理委員会に通知し、そこから50日以内に選挙を実施すると定めており、9月にも実施されるとみられる。

翁長氏の体調については、謝花(じゃはな)喜一郎副知事が8日午後5時から県庁で会見し、「意識が混濁状態になっている」と説明。8日以降は謝花氏と富川盛武副知事が知事の職務代理を務めると発表していた。謝花氏によると、翁長氏は7日から徐々に意思決定に支障が出てきていた。4日に謝花氏らと面会した際には、がんが肝臓に転移していると明かしたという。

翁長氏は4月に人間ドックを受けた際に精密検査が必要と指摘された。膵臓(すいぞう)に腫瘍(しゅよう)が見つかり、切除手術を受けた。再発を抑える抗がん剤治療を受けながら県議会6月定例会や、6月23日の沖縄全戦没者追悼式に出席していた。

辺野古移設をめぐることは、7月27日に県庁で会見し、前知事による辺野古の埋め立て承認を撤回する手続きに入ると表明。土砂投入前の8月中旬に撤回に踏み切ることを目指し、作業を進めていた。9日には沖縄防衛局側の反論を聴く「聴聞」を予定通り実施する。謝花氏によると、撤回するかどうかの判断は、知事の職務代理者でも可能という。

一方、翁長氏は知事選について、2期目を目指して立候補するかどうか態度を明らかにしてこなかった。だが「移設反対」を掲げて保守中道層の支持を集められる候補は翁長氏以外いないとして、共産や社民など県議会与党は、9月県議会での立候補表明を前提に準備を進めていた。

翁長氏死去、政界からも悼む声 知事選へ与野党動き加速

朝日新聞デジタル 2018年8月8日 20時59分



翁長知事の自

宅を弔問した後、記者の質問に涙を見せる参院議員の糸数慶子氏＝2018年8月8日午後11時17分、那覇市大道、河合真人撮影



翁長氏の死去を受けて、中央政界でも哀悼の意を示す声相次いだ。自民党の二階俊博幹事長は「沖縄が抱える諸課題に対し命がけで取り組まれる知事の姿に、政治家として人間として通じるものを常々感じていた。ご冥福を心からお祈りいたします」とコメントした。

立憲民主党の辻元清美国会対策委員長は「沖縄の最後のとりでだった。命を削って沖縄を守ろうとされていた」。共産党の小池晃書記局長は「命がけで辺野古に新基地を作らせないということをやってこられた。その遺志を受け継いで戦い抜くことで、翁長氏の無念の思いに応えたい」と朝日新聞の取材に語った。

沖縄県知事選はもともと翁長氏の任期満了に伴い11月18日に行われる予定だったが、死去に伴い前倒しされる。与野党は選挙に向けた動きを加速させる。

政府・与党側は佐喜真淳宜野湾市長を擁立する方針で、自民党はすでに選挙対策本部職員を沖縄入りさせている。党関係者は「現地の態勢を整えるスピードをアップさせる」と語った。ただ、知事選は移設計画に反対の旗振り役だった翁長氏の「甲い合戦」の色合いが濃くなる可能性があり、官邸幹部は「無党派層の票の流れが読めない」と語り、行方は不透明だとみる。

沖縄には現在も「魂の飢餓感」 翁長氏の言葉を振り返る
朝日新聞デジタル 2018年8月9日 05時02分



2016年12月、オスプレイが大破した現場（後方）を訪れた翁長雄志沖縄県知事＝沖縄県名護市、小宮路勝撮影



埋め立て海域の工事が進み、

一部が護岸で囲まれた辺野古の海岸＝2018年7月26日、沖縄県名護市、朝日新聞社ヘリから、堀英治撮影

沖縄県知事の翁長雄志さんが8日、亡くなった。67歳だった。米軍普天間飛行場（同県宜野湾市）の名護市辺野古への移設に反対し、県民の広い支持を集めた。主な発言を振り返る。

2012年11月、那覇市長当時に朝日新聞のインタビューに応じた。

「ぼくは自民党県連の幹事長もやった人間です。沖縄問題の責任は一義的には自民党にある。しかし社会党や共産党に国を任せるわけにもいかない。困ったもんだと、ずっと思ってきた。ただ、自民党でない国民は、沖縄の基地問題に理解があると思っていたんですよ。ところが政権交代して民主党になったら、何のことはない、民主党も全く同じことをする」

「僕らはね、もう折れてしまったんです。何だ、本土の人はみんな一緒じゃないの、と。沖縄の声と合わせるように、鳩山さん（鳩山由紀夫・元首相）が『県外』と言っても一顧だにしない。沖縄で自民党とか民主党とか言っている場合じゃないなという区切りが、鳩山内閣でつきました」

「振興策を利益誘導だというなら、お互い覚悟を決めましょうよ。沖縄に経済援助なんかいらぬ。税制の優遇措置もなくしてください。そのかわり、基地は返してください。国土の面積0・6%の沖縄で在日米軍基地の74%を

引き受ける必要は、さらさらない。いったい沖縄が日本に甘えているんですか。それとも日本が沖縄に甘えているんですか」

14年11月、辺野古移設反対を訴え知事選に当選した。「県民が私たちより先を行って…

沖縄県 翁長知事 死去

NHK8月9日 0時44分



沖縄のアメリカ軍普天間基地の名護市辺野古への移設反対を訴えて国と激しく対立してきた沖縄県の翁長知事が、8日亡くなりました。67歳でした。

翁長知事は、那覇市出身で、那覇市議会議員や沖縄県議会議員を経て、平成12年から那覇市長を務めたあと、平成26年の県知事選挙に立候補し、保守系と革新系の勢力でつくる、いわゆる「オール沖縄」という勢力の支援を受けて、初当選しました。

そして、普天間基地の名護市辺野古への移設阻止を最重要課題に掲げて、移設を進める国と激しく対立し、平成27年には、前知事による辺野古の埋め立て承認を取り消して国と県が法廷で争う異例の事態になりました。

おとし12月、最高裁判所が、埋め立て承認の取り消しは違法だとする判決を言い渡して県の敗訴が確定しましたが、その後も、翁長知事は、辺野古への移設阻止を訴え続け、先月には、前知事が行った埋め立て承認の撤回に向けた手続きを始めると表明していました。

翁長知事は、ことし4月にすい臓がんの手術を受け、治療を続けていましたが、先月30日に入院し、その後、急速に体調が悪化して、8日亡くなりました。

翁長知事の死去を受けて、職務代理者が県の選挙管理委員会に死去を通知した翌日から50日以内に県知事選挙が行われることとなります。

副知事「死因はすいがん」

謝花副知事は8日夜、翁長知事が入院していた沖縄県浦添市内の病院で、記者団に対し「翁長知事の直接の死因はすいがんだった。ほんの5時間前に、県民の皆様へ、ご理解とご支援をお願いし、知事のご回復をお願いしていたが、このような結果になり、残念で残念でしかたない。今は、翁長知事のご冥福を心からお祈り申し上げます」と述べました。

那覇市内 驚きや惜しむ声

沖縄県の翁長知事が死去したことについて、那覇市内では、

驚きや惜しむ声が聞かれました。

このうち22歳の女性は「たったいま知りました。驚いています。基地問題に一生懸命に取り組んでいる印象だったのでショックです。これからの沖縄がどうなっていくか不安です」と話していました。

また50代の男性は「体調が悪いなか、重圧を抱えてこられたのだと思います。基地問題をめぐる切羽詰まった局面で急に亡くなられたので、とても残念です」と話していました。

72歳の男性は「普天間基地の辺野古への移設阻止を最後までやり遂げたかっただろうと思います。知事選挙を控えるなかで、今後、誰が引き継いでいくのか気がかりです」と話していました。

小野寺防衛大臣「長くおつきあい 大変残念」

小野寺防衛大臣は「突然の訃報に驚いている。ことし6月の慰霊の日の追悼式でご挨拶させて頂いたのが、直接お会いできた最後の機会となった。その際、痩せておられたので、心配していた。翁長知事とは、知事が県議だった時代から長くおつきあいをさせていただき、様々な思い出があり、大変残念だ。心からお悔やみ申し上げます」というコメントを出しました。

福井沖繩・北方担当大臣「人柄 深く感じ入るものがあった」
福井沖繩・北方担当大臣は「翁長知事の訃報に接し、深い悲しみを禁じ得ない。翁長知事とともに沖縄振興に取り組む機会を持たせていただいたが、知事のお人柄には1人の人間として深く感じ入るものがあった。もうお会いできないと思うと残念でならない。翁長知事のご功績に敬意を表するとともに、心からご冥福をお祈りする」というコメントを出しました。

自民 二階幹事長「命懸けの姿に通じるもの」

自民党の二階幹事長は「沖縄を抱える諸課題に対し、命懸けで取り組まれる知事の姿に、政治家として、人間として通じるものを常々感じていた。自民党は、戦後の日本の多くの課題を背負っている沖縄県の発展のために、常に県民に寄り添いながら、全力を尽くすことを改めて誓う。翁長知事のご冥福を心からお祈りする」などとするコメントを出しました。

自民 石破元幹事長「沖縄の在り方を一心に考えておられた」

自民党の石破元幹事長は、静岡県袋井市で記者団に対し、「早かったという思いだ。われわれとは立場を異にしたが、保守の思いを持たれた政治家であり、沖縄の在り方を、本当に一心に考えておられた。残念だ」と述べました。

公明 山口代表「これまでの功績に感謝」

公明党の山口代表は「翁長知事は、沖縄の発展、振興のために、懸命に努力されていたので、沖縄県民の生活水準向上のために、我々も、共に力を合わせてきた。沖縄県のリーダーの急逝は大変残念だ。那覇市長時代も通じた翁長知事のこれまでの功績に感謝し、心からご冥福をお祈り申し

上げる」とコメントしています。

また、山口氏は、普天間基地の移設問題について、「政府は、沖縄県民の声を丁寧にくみ取りながら、普天間基地の危険を取り除く選択肢は、辺野古移設であるとの合意を作り進めてきた。ほかに現実的な選択肢がみられない以上、これからも丁寧に県民の理解を求めながら、危険を取り除くための努力をしていかなければならない。沖縄県の基地負担を軽くしていくことが、政府の責任だ」としています。

立民 長妻代表代行「遺志を引き継がなければ」

立憲民主党の長妻代表代行は、NHKの取材に対し「突然の訃報に、ただただ驚いており、心からお悔やみ申し上げます。今後も、翁長知事の遺志を引き継ぐ県政運営を進めてほしいし、引き継いでいかなければならない」と述べました。

国民 玉木共同代表「まさに命懸けで闘った」

国民民主党の玉木共同代表は、NHKの取材に対し、「自国に他国の軍事基地があることの違和感を、最後まで訴え続けた本物の保守政治家が、またひとり、この世を去った。まさに命懸けで沖縄のために闘った信念の政治家だったと思う。謹んでお悔やみ申し上げます」と述べました。

共産 志位委員長「遺志を引き継ぎ 戦う決意」

共産党の志位委員長は「翁長知事の突然の訃報に接し、強い悲しみに打たれている。心からのお悔やみを申し上げます。不屈の信念と烈々たる気概で、辺野古新基地反対を貫いた4年間の戦いに、深い敬意と感謝をささげる。保守・革新の垣根を超えた共闘にこそ、沖縄の未来がある。ご遺志を継ぎ、戦う決意だ」というコメントを出しました。

自由 玉城幹事長「遺志を受け止め、闘いは続いていく」

自由党の玉城幹事長は、NHKの取材に対し、「突然の訃報に驚いている。翁長知事は、沖縄県民の思いを一身に受け止め、沖縄の未来を、誇りある豊かな姿にしていく思いで頑張ってきた。その遺志をしっかり受け止め、未来につなげていくための新たな取り組みをしていかなければならない。闘いはこれからも続いていく」と述べました。

社民 又市党首「遺志を引き継ぐため頑張っていく」

社民党の又市党首は、NHKの取材に対し、「とてもショックだ。基地問題をめぐり大変苦労されてきたが、翁長氏の遺志を引き継ぐためにも、何としても頑張っていくといけない」と述べました。

翁長知事死去で知事選への動き 活発に

NHK8月9日 4時27分



沖縄県の翁長知事の死去に伴い、来月にも、沖縄県知事選挙が行われる見通しになりました。翁長知事を支援してきた社民党や共産党などは、後継候補の擁立に向けて、調整を本格化させるのに対し、対立してきた自民党も、選挙戦の準備を急ぐなど、今後、双方の動きが活発化する見通しです。

沖縄のアメリカ軍普天間基地の名護市辺野古への移設反対を訴えて国と激しく対立してきた沖縄県の翁長知事は、8日、入院していた浦添市内の病院で、すい臓がんのため死去しました。

これに伴って、来月にも、沖縄県知事選挙が行われる見通しになりました。

翁長知事を支援してきた沖縄の社民党や共産党などは8日夜、会合を開いて対応を協議するなど、後継候補の擁立に向けて、今後、調整を本格化させる見通しです。

一方、翁長知事と対立し、すでに県知事選挙に宜野湾市の市長の擁立を決めている自民党は9日、緊急に県議会議員の総会を開いて選挙戦の準備を急ぐことを確認する方針で、今後、双方の動きが活発化する見通しです。

米國務省は知事死去で哀悼の意

沖縄県の翁長知事が死去したことを受けてアメリカ國務省の当局者は8日、「われわれは翁長知事のご家族や同僚、そして沖縄の人々に心より哀悼の意を表します。アメリカと日本との関係への翁長知事の貢献に感謝します」と述べました。

アメリカ政府は普天間基地の名護市辺野古への移設について、日本政府と連携し着実に実行することが重要だという立場で、今後の情勢や来月にも行われる見通しの沖縄県知事選挙の行方を注視していくものとみられます。

沖縄 翁長知事 意識混濁状態に 副知事が職務代理へ NHK8月8日 17時57分



沖縄県は、ことし4月すい臓がんの手術を受け治療にあたってきた沖縄県の翁長知事について、7日から意識が混濁する状態になったとして、当面、副知事が職務を代理することになりました。

これは沖縄県の謝花副知事が午後5時から記者会見をして発表したものです。それによりますと、ことし4月、すい臓がんの手術を受け、治療を続けながら職務に当たってきた

た翁長知事は、先月 30 日、入院し、7 日から意識が混濁し、徐々に意思確認に支障を来すようになったということです。

これを受けて沖縄県は、事前の翁長知事の指示に従って、8 日から当面の間、2 人の副知事が職務を代理することになりました。

謝花副知事は、一部で翁長知事が近く辞職すると報道されたことについて「みずからが辞職するとはわれわれは聞いていないので、否定いたします」と述べました。

翁長知事は先月、アメリカ軍普天間基地の辺野古移設めぐり、前知事が行った埋め立て承認の撤回の手続きに入ると表明したばかりでした。

また、翁長知事は、ことし 11 月に行われる予定の県知事選挙に 2 期目を目指して立候補するかどうか明らかにしていません。

翁長知事を支援している共産党や社民党などは、翁長知事の再選を目指して準備を進めていますが、今回の体調悪化を受けて、支援する政党や団体の間で県知事選挙への対応をめぐる議論が活発になることも予想されます。

沖縄県の翁長知事が死去、辺野古移設反対のシンボル

JNN8 月 8 日 23 時 11 分

普天間基地の辺野古移設に反対する人々の象徴的な存在で、膵（すい）がんで闘病中だった沖縄県の翁長雄志知事が亡くなりました。67 歳でした。沖縄からの報告です。

那覇市の翁長知事の自宅前です。病院を出た遺体を乗せた車が自宅へと入っていきました。ニュースを見て驚いて駆けつけたという近所の方、そして親族、政界関係者など続々と弔問客が訪れています。

膵がんの治療中だった翁長知事は、その後、肝臓にもがんが転移するなどして、7 日から意識混濁となっていました。8 日午後 6 時 43 分に入院先の病院で亡くなりました。67 歳でした。

「安らかなお顔でした。残念で仕方ありません」（沖縄県謝花副知事）

「沖縄のために本当に頑張ってくれたので、悔しくて悲しくてたまりません」（沖縄県民）

「かなり心残りかなと思います」（沖縄県民）

「翁長さんしか頼みがなかったのに、残念でたまりません」（沖縄県民）

翁長知事は普天間基地の辺野古移設反対を掲げ、2014 年の県知事選挙で初当選。辺野古移設を進める政府と激しく対立し、先月 27 日には、前の知事による埋め立て承認を撤回する方針を表明していました。

翁長知事の死去を受けて、11 月に予定されていた県知事選挙は来月後半にも実施される見通しとなっています。

翁長雄志知事が死去 67 歳

ANN2018/08/08 23:30

沖縄県の翁長雄志知事が 8 日夕方、入院していた県内の病院で亡くなった。67 歳だった。翁長氏は 2014 年、前知事に約 10 万票の大差を付けて知事となると、辺野古への新基地建設を推し進める国と、圧倒的な民意を背に真っ向から対峙。すい臓がんとの闘病を続けるなか、先月 27 日には最期の切り札ともいえる埋め立て承認の撤回を表明していた。しかしその後、容態が悪化し、先月 30 日から入院していた。

翁長沖縄県知事、死去 がん手術後も公務続け...

ANN2018/08/09 05:55

膵臓（すいぞう）がんのため、病気療養中だった沖縄県の翁長雄志知事が 8 日、亡くなりました。67 歳でした。

県によりますと、翁長知事は午後 6 時 43 分、膵臓がんのため、入院中の病院で亡くなりました。翁長知事は 2014 年、辺野古の新基地建設の阻止を最大の公約に掲げて当選。その後、辺野古を巡って国との訴訟にまで発展しました。知事は 4 月に膵臓がんの手術を受け、転移などを抑える化学療法を受けながら公務を続けていましたが、辺野古の新基地建設の埋め立て承認撤回を事実上、表明した後、先月 30 日から再入院していました。任期満了に伴い、11 月に投開票の予定だった知事選は来月中にも実施される見通しです。

沖縄県の翁長知事が死去 基地移設反対貫く

NNN2018 年 8 月 8 日 23:40

沖縄県の翁長雄志知事が、亡くなった。67 歳だった。全文を読む

沖縄県の翁長雄志知事が、亡くなった。67 歳だった。沖縄県によると、翁長知事は 8 日午後 6 時 43 分、すい臓がんのため、入院先の沖縄県内の病院で亡くなった。67 歳だった。葬儀の日程は未定。

今年 4 月にすい臓がんの摘出手術を受けた翁長氏は、その後、公務に復帰したが、がんが肝臓に転移し、先月、再び入院していた。意識が混濁した状態となったため、8 日、2 人の副知事が知事の職務代理となっていた。

翁長氏の死去に伴い、今年 11 月に予定されていた沖縄県知事選挙の日程は前倒しされることになる。

また、アメリカ軍普天間基地の移設問題で、翁長氏は、辺野古の海の埋め立て承認をあらためて「撤回」する手続きを進めていたが、この「撤回」の実施も不透明となりそうだ。

翁長知事、意識混濁 副知事を職務代理者に

NNN2018 年 8 月 8 日 18:41

沖縄県の翁長知事が、手術後の病状が悪化し、当分の間、二人の副知事が、知事の職務を代理することを明らかにし

た。8日の時点で、翁長知事は意識が混濁した状態だとい
う。

全文を読む

沖縄県の翁長知事が、手術後の病状が悪化し、職務代理を
置くことになった。

沖縄県の謝花副知事が8日会見し、当分の間、二人の副知
事が、知事の職務を代理することを明らかにした。

翁長知事は今年4月、すい臓がんの摘出手術をうけ、その
後、公務に復帰したが、がんが肝臓に転移し、先月30日
に再び入院していた。

8日の時点で、翁長知事は意識が混濁した状態だとい
う。

翁長沖縄県知事が死去 67歳 すい臓がんで闘病中

FNN08/09 06:40

政府が進める普天間基地の移設計画に反対し、すい臓がん
で闘病中だった沖縄県の翁長知事が、8日夕方亡くなった。
67歳だった。

2018年4月にすい臓がんが見つかった翁長知事は、抗が
ん剤治療を続けながら公務を担ってきたが、7月30日に再
入院し、8日午後6時43分に息を引き取ったという。

翁長知事は、政府が進める普天間基地の移設計画に反対し、
前の知事が行った名護市辺野古沿岸部の埋め立て承認を撤
回する手続きに入ると表明したばかりだった。

翁長知事は「今後もあらゆる手法を駆使して、辺野古に新
基地は造らせないという公約実現に向けて、全力で取り組
む」と述べていた。

今後、沖縄県の職務代理者が選挙管理委員会に知事の死去
を通知し、その翌日から50日以内に県知事選挙が行われ
ることになる。

(沖縄テレビ) (沖縄テレビ)

翁長沖縄知事(67)が死去 辺野古新基地反対を貫く

FNN08/08 20:00

すい臓がんで闘病中だった沖縄県の翁長雄志知事が、8日
夕方に死去した。

政府との対立が続く普天間基地の移設問題では、あらゆる
手段で辺野古に基地はつくらせないと、最後まで力を尽く
した。

2018年4月にすい臓がんが見つかった翁長知事は、抗が
ん剤治療を続けながら公務を務めてきたが、7月30日に再
入院し、肝臓へのがんの転移が見つかった。

関係者によると、翁長知事は8日夕方、入院先の病院で息
を引き取ったという。

67歳だった。

県は、翁長知事に代わって、8日から当分の間、副知事が
職務を代行すると発表したばかりだった。

沖縄・翁長知事「意識混濁」 6日に緊急入院

FNN08/08 18:17

沖縄県は8日午後、すい臓がんの手術を受け、闘病中の翁
長知事の容体が悪化し、意識混濁状態にあると発表した。

沖縄県の謝花 喜一郎副知事は、「昨日から徐々に意思決定
に支障をきたし、意識が混濁している状況となった」と述
べた。

沖縄県の翁長知事は、2018年4月にすい臓がんの手術を
受けたあと、治療を続けながら公務を行っていた。

7月27日に、普天間基地の移設問題をめぐり埋め立て承認
の撤回を表明したあとは、公の場に姿を見せておらず、6日
に緊急入院し、7日に容体が悪化したという。

県は今後、2人の副知事が職務代理者を務める方針を示し
ている。

(沖縄テレビ) (沖縄テレビ)

翁長雄志知事が死去 67歳

琉球新報 2018年8月8日 19:41



沖縄県の翁長雄志知事が8日午後6時43分、入院先の
浦添総合病院で死去した。67歳。4月に膵臓がんの手術
を受け、治療を続けていた。辺野古新基地建設の阻止を最
大の公約に掲げ、歴代の知事の中でも高い県民支持率を背
景に、米軍普天間飛行場の辺野古移設を推し進める国と鋭
く対立してきた。【琉球新報電子版】

沖縄の自治、問われる事態に 翁長知事死去

琉球新報 2018年8月9日 06:00



つながったK4護岸の工事現場に向かって、船やカヌーから抗議する人たち＝4日午後2時50分ごろ、名護市辺野古の米軍キャンプ・シュワブ沿岸（小型無人機で撮影）

現職知事の在任中の死去という復帰後の県政史上、初めての事態を迎えた。翁長雄志知事は、知事選で示された新基地建設反対の民意を一貫して体現しながら、その訴えを無視して基地建設工事を強行してきた政権の強大な権力と対決してきた。その重圧は計り知れない。翁長知事の心身を削ってきたとみられる。歴代県政の中でも高い支持率を背景に国策の押し付けに異議を申し立ててきた翁長県政の終焉（しゅうえん）により、沖縄の自治の在り方が改めて問われることになる。

翁長氏が公の場に最後に姿を見せた7月27日は、前知事による辺野古埋め立て承認の撤回を表明した記者会見だった。沖縄防衛局が土砂投入開始を通知した今月17日が迫る中で、撤回による工事停止に向けて、事業者の言い分を聞く聴聞手続きに入るよう職員に指示した。

知事権限の中でも「最後の切り札」と言われる撤回について、現段階で今後の法廷闘争に耐え得るだけの根拠を持ち得るかと県庁内部にも慎重意見があった。だが、土砂投入を見ごせれば、沖縄の政治の先行きに禍根を残すという自身の政治判断も含め、「全て知事の責任で」と決断した。

だが、撤回の実施を自らで決定することはかなわなかった。前倒しの県知事選へと向かう中で、埋め立て承認の撤回という重大な決定を副知事による職務代理が実施できるのか、法的検証や政治日程も絡み合い、先行きは複雑な様相を呈している。

唐突にリーダーを失う県民の喪失感は計り知れないばかりでなく、国策の押し付けにあらがう地方の長として全国的にも支持があっただけに衝撃は大きい。翁長氏の任期途中の死去により、基地問題や政局など各方面で混乱することも予想される。辺野古新基地建設阻止の行方も不透明さを増す。こうした混乱に乗じて国が埋め立て工事を計画通りに進めるようであれば、県民世論の反発は必至だ。

「米軍施政権下、キャラウェイ高等弁務官は沖縄の自治は神話であると言ったが、今の状況は、国内外から日本の

真の独立は神話であると思われているのではないか」(2015年11月、辺野古代執行訴訟第1回口頭弁論知事意見陳述)。沖縄に負担を押し付け、繁栄を享受してきた日米安保体制のゆがみを突きつけ、公平な負担を日本全体に求めてきた翁長氏の言葉に国民全体としてどう応えるか。沖縄からの問い掛けは終わることはない。（与那嶺松一郎）

翁長氏、最後まで民意貫く 保革超えた枠組み構築 県政与党は後継者擁立迫られる

琉球新報 2018年8月9日 06:15



教科書検定意見撤回を求める県民大会で「沖縄戦の実相を正しく後世に伝えよう」と訴える那覇市長時代の翁長雄志氏＝2007年9月29日、宜野湾海浜公園

米軍普天間飛行場の名護市辺野古への移設に伴う新基地建設阻止を訴えてきた翁長雄志知事が8日、辺野古埋め立て承認の撤回を前に、任期途中で死去した。辺野古移設反対の世論を背景に保革を超えた「オール沖縄」の枠組みを構築した翁長氏は、命を削りながら最後まで沖縄の民意の象徴として公約を貫いた。現職の死去に伴う県知事選が55日以内に実施されることとなり、翁長氏の2期目出馬を前提としてきた県政与党は大きな喪失感を抱えながら、新基地建設反対の県政を継承する候補者の擁立を早急に迫られる。

翁長氏の新基地建設阻止の取り組みを支えてきた「辺野古に新基地を造らせないオール沖縄会議」は、沖縄防衛局による土砂投入が17日に迫るのを前に、辺野古新基地建設断念を求める県民大会を1日に那覇市の奥武山公園陸上競技場で開く。埋め立て承認の撤回について翁長知事自身で県民に報告してもらおうと10分間のあいさつを要請し、翁長知事も出席の意向を伝えていた。だが、7月27日の撤回表明会見以降、体調が急変し、県民大会参加はかなわなくなった。

◇「腹八分」のかじ取り

翁長氏は2014年11月の県知事選知事選で36万820票を獲得し、当時現職の仲井真弘多氏に9万9744

票の差をつけた。知事選直後の14年12月の衆院選でもオール沖縄の候補者が選挙区を独占するなど、国政で安倍政権一強が強まるのに対し、沖縄では保革の枠を超えた新しい政治勢力として「オール沖縄」が席卷した。

だが、新基地建設を巡る国との法廷闘争など政府との対立が激しくなるのに伴い、オール沖縄体制のほころびも見られるようになってきた。

今年1月の名護市長選では辺野古新基地建設反対で翁長氏と歩調を合わせてきた現職の稲嶺進氏が落選し、大きな痛手となった。辺野古埋め立ての是非を問う県民投票の実施を巡る見解の相違から、金秀グループの呉屋守将代表がオール沖縄会議の共同代表を辞任するなどの動きもあった。

辺野古問題以外では支持政党や支持者の間でそれぞれの相違を抱える勢力の舵取りに難渋しながら、翁長知事は「腹八分、腹六分で、皆で心をつにしたい」と繰り返していた。

翁長知事が築いた、保革を超えた枠組みである「オール沖縄」体制への影響について与党幹部の一人は「うらたえる必要はない。最良の後継者を選ぶだけで、県民には団結が求められている」と語った。

一方、別の幹部は「翁長知事の出馬以外想定していなかった。今後、『オール沖縄』の体制がどうなるか未知数で、人選を通じて与党の結束が試されている」と語った。

◇影響を警戒

公職選挙法の規定により、翁長氏死去に伴う知事選は9月下旬の日曜日が投開票日となる見込みとなった。急転直下の動きに対し、県政奪還を狙う政権与党の自民党からは、同月20日ごろに党総裁選が予定されているため「当初の日程（11月18日投開票）ほど、知事選に党を挙げた総力戦で臨みづらくなる」（党関係者）と影響を警戒する声が出ている。

国政選挙並みの強力なバックアップで宜野湾や名護の市長選を勝ち取り、「オール沖縄」を掲げる翁長氏の支持基盤を切り崩してきた自民にとって、知事選に関する翁長氏の動向は最大の関心事だった。自民党国会議員の一人は、翁長氏の逝去について「“弔い選挙”になることがどう影響するかは見通せない」と語った。

政府は今後も辺野古移設を進める方針を継続する構えだ。「今後、副知事は県政与党側から『どうしても撤回をやれ』と言われるだろう。まだ、どういう展開になるのか直には読めない。だが、翁長知事と同じようにやるというのなら、撤回の効力を失わせる訴訟など準備している手段に打って出る姿勢に変わりはない」（防衛省幹部）

ただ、9月に知事選が実施されることとなり、工事が与える影響を慎重に見極めつつ対応するとみられ、翁長氏が表明した辺野古埋め立て承認の撤回への対抗措置も再検討を迫られることになりそうだ。ある政府関係者は、翁長氏が辺野古移設反対を最後まで貫き通したことに触れ「国が

工事を強行しているという姿勢は、より印象強く残ることになるだろう」と見通した。（与那嶺松一郎、吉田健一、當山幸都）

翁長知事、意思決定に支障 職務管理者に両副知事 謝花副知事が会見

琉球新報 2018年8月8日 17:46



翁長雄志知事の現在の状態や今後の職務代理などについて説明する謝花喜一郎副知事＝8日午後5時すぎ、県庁

謝花喜一郎副知事は8日、県庁で緊急の記者会見を開き、翁長雄志知事の病気療養のため、謝花副知事が今月8日から12日までの間、富川盛武副知事が13日から当分の間、知事の職務を代理すると発表した。

翁長知事は4月に膵臓がんの手術を受け、5月15日の退院以降、抗がん剤治療を受けながら、公務を務めてきたが昨日から徐々に意思決定に支障を来し、意識が混濁している状況となったという。

謝花副知事は「翁長知事は、かねてより自らが意思決定できない状況になったならば、速やかに職務代理を置き、県政運営に万全を期すよう我々に伝えており、主治医とも相談の上、職務代理を置くこととした」と説明した。翁長知事は7月30日から再入院している。肝臓への転移が見つかったという。知事の復帰の可能性については「1日も早い回復を待ちたい」と答えた。

謝花副知事は翁長知事の辞職について「それはありません」と否定した上で、知事は職務を全うするのかという質問には、「翁長知事は『かねてから任期の4年間、1日1日公務を着実に実施し、県民の付託に応えたい』と話しており、その意識は持っている」と答えた。ただ、琉球新報による関係者への取材では公務復帰は難しく、辞職する見通し。

辺野古の新基地建設を巡り、今月11日には「土砂投入を許さない！ ジュゴン・サンゴを守り、辺野古新基地建設断念を求める8・11県民大会」（辺野古に新基地を造らせないオール沖縄会議主催）が開かれるが、知事の出席について謝花副知事は、「知事の出席は難しいと考えているが、私が代理出席し、知事が考えていたメッセージを読ませて頂きたい」と話した。

翁長知事、辞職へ 職務代理者に謝花副知事 知事選前倒



4月に膵臓（すいぞう）がんの手術を受け、治療を続けてきた翁長雄志知事（67）が、病状が回復するめどがつかず、近く辞職することが8日、関係者の話で分かった。県は8日午後5時から記者会見を開き、謝花喜一郎副知事が職務代理者を務めることを発表する。

会見を前に県政与党に近い県選出国會議員に謝花副知事から電話で連絡があり、知事の状態について「意識混濁（こんだく）」と説明されたという。

公職選挙法では、県知事は県議会議長に退職を申し出る。議長は5日間以内に県選挙管理委員会に通知し、この通知から50日以内に選挙が行われる。翁長知事の任期満了に伴う知事選は11月1日告示、11月18日投開票が決まっていたが、前倒しで実施される公算が大きい。

翁長知事は辺野古埋め立て承認の撤回を表明した7月27日の会見を最後に登庁せず、公の場に姿を見せていなかった。数日前から浦添市内の病院に緊急入院している。

翁長知事は最大の公約としてきた名護市辺野古沿岸での新基地建設阻止に向け、仲井真弘多前知事による公有水面埋め立ての承認を「撤回」する手続きに入っているが、撤回の実施も不透明となる。

現職県知事の辞職は、1978年11月に第2代知事、平良幸市氏が病気を理由に辞職して以来、40年ぶり2度目となる。歴代の県知事の中でも高い支持率を背景に、米軍普天間飛行場の名護市辺野古移設を推し進める国と鋭く対峙してきた翁長知事の辞職により、辺野古新基地建設をはじめとする基地問題の行方や、最大の政治決戦となる11月の知事選を控えた県内政局は一気に流動化する。

翁長知事は今年に入り、辺野古新基地建設阻止を訴える訪米行動や、天皇、皇后両陛下の沖縄訪問時の同行など重要な公務が続いていた中で、体重の減少など体調面の不調が見られていた。4月に受診した人間ドックで再検査が指示され、精密検査の結果、膵臓がんが見つかった。

すい臓は食物の消化を助けるすい液や、血糖値を調節す

るホルモンのインスリンなどを生産する器官。5月15日の退院会見では、膵臓がんを取り除く手術を実施したと発表し、がんの移転や再発を抑える化学療法を続けながら本格的な公務復帰を目指すとしていた。

体調が不安視されながら6月23日の県主催による沖縄全戦没者慰霊式典に出席し、平和宣言を読み上げた。7月27日には県庁で記者会見を開き、辺野古埋め立て承認を撤回する方針の表明した。ただ、7月下旬の全国知事会議、8月初旬の国庫要請には自ら赴くことで公務日程を入れていたが、医師と相談により、長距離移動による負担を避けることや治療を優先する方針から直前になり県外出張を取りやめていた。

翁長氏は2014年11月の第12回県知事選知事選で、36万820票を獲得して初当選した。辺野古移設反対の世論を背景に保革を超えた「オール沖縄」の枠組みを構築し、当時現職の仲井真氏に9万9744票差をつけた。【琉球新報電子版】

闘病中の翁長知事の職務代理者設置へ 沖縄県

琉球新報 2018年8月8日 15:40



翁長雄志知事＝7月27日、沖縄県庁

沖縄県は8日午後5時から記者会見を開き、病気療養中の翁長雄志知事の職務代理者を置くことを発表する。翁長知事は4月に膵臓（すいぞう）がんの手術を受け、治療を続けてきたが、病状が回復するめどがつかず、当面職務の遂行が困難と判断した模様だ。

翁長知事は辺野古埋め立て承認の撤回を表明した7月27日の会見を最後に登庁せず、公の場に姿を見せていなかった。緊急入院しているとみられる。

翁長知事は今年に入り、辺野古新基地建設阻止を訴える訪米行動や、天皇、皇后両陛下の沖縄訪問時の同行など重要な公務が続いていた中で、体重の減少など体調面の不調が見られていた。4月に受診した人間ドックで再検査が指示され、精密検査の結果、膵臓がんが見つかった。

すい臓は食物の消化を助けるすい液や、血糖値を調節するホルモンのインスリンなどを生産する器官。5月15日

の退院会見では、膵臓がんの取り除く手術を実施したと発表し、がんの移転や再発を抑える化学療法を続けながら本格的な公務復帰を目指すとしていた。

体調が不安視されながら6月23日の県主催による沖縄全戦没者慰霊式典に出席し、平和宣言を読み上げた。7月27日には県庁で記者会見を開き、辺野古埋め立て承認を撤回する方針を表明した。

ただ、7月下旬の全国知事会議、8月初旬の国庫要請には自ら赴くことで公務日程を予定していたが、医師との相談により、長距離移動による負担を避けることや治療を優先する方針から直前になって県外出張を取りやめていた。

【琉球新報電子版】

安室奈美恵さん、翁長知事死去でコメント 琉球新報 2018年8月9日 06:40



翁長雄志知事から表彰状を受け取った安室奈美恵さん＝5月23日、沖縄県庁

翁長雄志知事の死去の訃報を受け、県出身の歌手、安室奈美恵さんは9日、公式ホームページでコメントを発表した。

「お悔やみ申し上げます」と題した一文の中で安室さんは「体調が優れなかったにもかかわらず、私を気遣ってくださり、優しい言葉をかけてくださいました」と県民栄誉賞授与式を振り返り、「沖縄の事を考え、沖縄の為に尽くしてこられた知事のご遺志がこの先も受け継がれ、これからも多くの人に愛される沖縄であることを願っております」と知事の冥福を祈った。

安室さんは5月23日、沖縄県から県民栄誉賞を受けた。翁長知事は膵臓がんで闘病中だったが、授賞式には出席し、安室さんに表彰状を手渡した。

《安室さんのコメント全文》

翁長知事の突然の訃報に大変驚いております。

ご病気の事はニュースで拝見しており、県民栄誉賞の授賞式でお会いした際には、お痩せになられた印象がありました。

今思えばあの時も、体調が優れなかったにも関わらず、

私を気遣ってくださり、優しい言葉をかけてくださいました。

沖縄の事を考え、沖縄の為に尽くしてこられた翁長知事のご遺志がこの先も受け継がれ、これからも多くの人に愛される沖縄であることを願っております。

心から、
ご冥福をお祈り致します。
安室奈美恵

【号外】沖縄県の翁長雄志知事が死去 最後まで辺野古新基地反対貫く 67歳、膵臓がん 沖縄タイムス 2018年8月8日 20:18



沖縄県知事の翁長雄志氏が8日午後7時までに、膵臓(すいぞう)がんのため入院中の浦添総合病院で死去したことが分かった。67歳だった。米軍普天間飛行場の返還に伴う名護市辺野古への新基地建設への反対を訴え、2014年の県知事選で初当選。新基地建設反対を最後まで貫いた。

翁長知事の任期満了に伴う知事選は11月告示、11月18日の投開票が決まっていたが、死去により9月にも知事選が実施される。

翁長知事は膵臓がんの手術を受け、治療を続けていたが、病状の回復のめどがたたず、7月30日に再入院していた。関係者によると意識混濁の状況になっていた。県は8日、謝花喜一郎副知事を職務代理とする方針を発表した。

翁長知事は7月27日に名護市辺野古の新基地建設に伴

う埋め立て承認について、「公益に適合しない」などの理由で撤回すると表明。同31日に沖縄防衛局の言い分を聞くための聴聞通知書を県が防衛局へ送ったが、その際には登庁していなかった。

辺野古新基地問題で政府と激しく対峙（たいじ）してきた翁長知事の死去で、基地問題の行方や知事選を含めた県内政局が一気に加速する。

翁長知事は4月25日に膵臓がんの手術を受け、5月15日に退院。ステージ2のがんだったと公表し、復帰後も公務を制限していた。6月県議会本会議の代表、一般の両質問の全日程に出席。一般質問の初日では治療を理由に欠席を申し出たが、野党会派が反発し、日程を変更し、知事が出席した。

翁長知事を支える県議会と野党会派などは11月18日投開票の知事選で、翁長氏の二期目の出馬を前提に協議を進めており、影響は必至だ。

1950年生まれ、那覇市出身。85年に那覇市議に初当選し2期務め、県議（2期）、2000年から那覇市長を4期14年務めた。

翁長雄志・沖縄県知事が死去 辺野古移設反対の象徴

沖縄タイムス 2018年8月9日 00:30

米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の名護市辺野古移設阻止を掲げ、反対運動の象徴的存在だった沖縄県の翁長雄志（おなが・たけし）知事が8日午後6時43分、膵臓がんのため死去した。67歳。葬儀・告別式は未定。那覇市出身。翁長氏は普天間飛行場の辺野古移設を巡り、7月に埋め立て承認撤回方針を表明しており、9日に県が沖縄防衛局から弁明を聞く聴聞が実施される。死去は移設問題に大きく影響する可能性がある。



記者会見する沖縄県の謝花喜一郎副知事＝8日午後、沖縄県庁



死去した翁長雄志氏

職務代理は副知事が務める。任期満了に伴う知事選が11月投開票の予定だったが、9月中に前倒しされる見込み。（共同通信）

沖縄県の翁長知事が死去 67歳 膵臓がん入院中 辺野古新基地阻止を貫く

沖縄タイムス 2018年8月9日 06:11

翁長雄志知事が8日午後6時43分、膵臓（すいぞう）がんのため、浦添市の浦添総合病院で亡くなった。67歳だった。4月25日に膵臓がんの手術を受け、5月15日に公務復帰し、治療を続けていた。7月30日に再入院し、がんが肝臓に転移し、肝臓や腎臓の機能が低下したことで、7日から意識混濁の状態だった。現職の沖縄県知事が任期中に亡くなるのは初めて。名護市辺野古の新基地建設問題や知事選に影響が出るのは必至だ。



身ぶりを交えながら、埋め立て承認の撤回の理由を説明する翁長雄志知事＝7月27日午前11時7分、県庁

告別式は未定で、9日に家族と葬儀業者で調整するという。那覇市出身。

謝花喜一郎副知事が8～12日まで、富川盛武副知事が13日から職務代理者に就く。富川副知事や新里米吉議長が南米出張から帰任後、県民葬を開くか、どうかなどを決めるという。

翁長知事は辺野古新基地建設阻止に向け、埋め立て承認撤回の意向を7月27日に表明して以来、公の場に姿を見せていなかった。

県によると7月30日から入院。謝花副知事らが今月4日に一般の個室で面会した際、知事は椅子に座り、しっかりと口調で、がんの転移を告げ「抗がん剤治療などで意志決定できない状況になったら、速やかに職務代理者を置き、県政運営に万全を期してほしい」と指示したという。

6日には、埋め立て承認撤回に関する聴聞期日の延期を認めないという沖縄防衛局への文書を病室で自ら決裁した。その後、7日になって徐々に意思疎通ができなくなった。

翁長氏は1950年10月2日生まれ。那覇市議2期、県議2期。2000年に那覇市長に初当選し、14年10月まで4期14年務めた。その後、14年11月の知事選

で、辺野古新基地建設反対を掲げ、現職だった仲井真弘多氏に約10万票の大差を付けて、当選した。

新基地建設阻止を県政運営の柱に掲げ、15年10月には前知事の埋め立て承認を取り消し。16年12月の最高裁で県敗訴が確定した後、今年7月に埋め立て承認の撤回を表明し、手続きを進めていた。米国やスイスの国連人権理事会にも足を運び、沖縄の基地負担の現状を訴えていた。

しまくとぅばの普及にも精力的に取り組んだ。父親は沖縄戦の戦没者を慰霊する魂魄の塔を建立した元真和志村長の助静氏。

翁長氏後継に複数浮上 県政与党、早急な人選へ

沖縄タイムス 2018年8月9日 06:55

沖縄県の翁長雄志知事の死去に伴い、翁長氏再選を目指してきた県政与党や労働組合は早急な候補者人選に入る。



(左から) 城間幹子氏、糸数慶子氏、謝花喜一郎氏

与党内からは副知事として翁長氏を支えてきた謝花喜一郎氏(61)や、糸数慶子参院議員(70)、4年前に知事選とセットで市長選を戦い勝利した城間幹子那覇市長(67)らの名前が挙がる。

与党幹部は、候補者の条件として「翁長知事の路線継承」が最低条件で、名護市辺野古への新基地建設阻止などを求める「建白書」理念の実現だと指摘する。

謝花氏は2016年4月から18年3月まで知事公室長を務め新基地建設問題での対応をけん引してきた。法廷闘争や知事権限などに明るく、翁長県政が最重要課題としてきた辺野古問題を引き続き担うには「最適」(与党幹部)との見方がある。糸数氏は参院議員を3期務めた実績を評価し、期待する声がある。

さらに、10月の那覇市長選への再選を目指し立候補を表明した城間氏を推す声も強い。与党関係者は前回知事選と同日選で、同じオール沖縄体制で勝利した城間氏は「オール沖縄として推せる」と期待を寄せる。このほか、金秀グループの呉屋守将会長(69)らの名前も挙がっている。

政府、辺野古移設への影響注視 翁長知事死去受け

沖縄タイムス 2018年8月8日 23:20

政府は、沖縄県の翁長雄志知事が8日に死去したことを受け、米軍普天間飛行場(宜野湾市)の名護市辺野古移設計画への影響などを注視する。ただ辺野古移設計画については日米同盟を堅持する立場から、引き続き推進していく

方針だ。

防衛省幹部は「立場は対立していたが、翁長氏とは長く仕事を一緒にしてきた」と沈痛な表情。「今後についてはまだ何も言えない」と言葉を濁した。一方で別の幹部は「行政は行政で仕事を進めないといけない」と指摘した。

外務省幹部は、翁長氏が手続き開始を表明していた辺野古沖の埋め立て承認撤回に対し「これまでと何も変わらない」とした。(共同通信)

翁長知事死去：与野党幹部「沖縄の課題に努力」「道半ば非常に無念」

沖縄タイムス 2018年8月8日 21:53

沖縄県の翁長雄志知事死去を受け、与野党幹部から8日、悼む声が相次いだ。沖縄北方担当相を務めた自民党の岸田文雄政調会長は共同通信の取材に「独自の信念に基づき真剣に沖縄の課題に取り組み努力された」と述べた。国民民主党の玉木雄一郎共同代表も取材に「まさに命懸けで沖縄のために取り組んだ信念の政治家だった。道半ばで非常に無念だと思う」と語った。

自民党の細田博之前総務会長は東京都内で記者団に「お悔やみ申し上げる」とした。

立憲民主党の辻元清美国対委員長は記者団に「余人をもって代え難い方なので、いろいろなところに影響が出てくる」と指摘した。(共同通信)

翁長知事死去：政府、辺野古移設推進は堅持

沖縄タイムス 2018年8月8日 21:51

政府は、沖縄県の翁長雄志知事が8日に死去したことを受け、米軍普天間飛行場(宜野湾市)の名護市辺野古移設計画への影響などを注視する。ただ辺野古移設計画については日米同盟を堅持する立場から、引き続き推進していく方針だ。

防衛省幹部は「立場は対立していたが、翁長氏とは長く仕事を一緒にしてきた」と沈痛な表情。「今後についてはまだ何も言えない」と言葉を濁した。一方で別の幹部は「行政は行政で仕事を進めないといけない」と指摘した。

外務省幹部は、翁長氏が手続き開始を表明していた辺野古沖の埋め立て承認撤回に対し「政府として対抗手段を取っていく。これまでと何も変わらない」とした。(共同通信)

翁長知事死去：「大きな痛手 無念」 辺野古新基地、抗議の支柱失う

沖縄タイムス 2018年8月9日 06:44

沖縄県の翁長雄志知事が8日午後、亡くなった。「辺野古に新基地を造らせない」と公約を掲げ、世論を背景に保革を超え構築された「オール沖縄」の象徴だった。がんを患っても、信念は揺るがなかった知事は4日に病室で面会した県幹部に、辺野古沿岸の埋め立て承認の撤回について「自

分でしっかりやりたい」と意欲を示していたという。突然の訃報に、新基地建設を巡り土砂投入が迫る現場や、11日に予定している県民大会、県民投票などに関わってきた関係者は大きなショックを受けていた。



辺野古新基地反対の県民大会で演説する翁長雄志知事＝2015年5月17日、那覇市・沖縄セルラースタジアム那覇

那覇市の奥武山陸上競技場で11日に開かれる県民大会には、翁長知事も出席する予定だった。主催するオール沖縄会議の高良鉄美共同代表は「大きなショックで言葉が見つからない。沖縄の市民運動の屋台骨を失った」と絶句した。

翁長知事は再入院する3日前の7月27日、新基地建設阻止に向け、「美しい辺野古を埋め立てる理由はない」と埋め立て承認の「撤回」を表明したばかりだった。その姿を思いながら「県民にとって大きな痛手。支えるべき人がいなくなった。支えが消えた」とがくぜんとし、「辺野古の工事強行に殺された感じがする」と話した。

「県民大会は追悼大会になるかもしれない」と高良共同代表。「悲しいし残念だし無念。それでも知事から託されたと思い、気持ちを奮い立たせるしかない」と声を詰まらせた。

「『辺野古』県民投票の会」の元山仁士郎代表は、翁長知事死去の一報を聞き「信じられない」と言葉を失った。午後4時半ごろ、ツイッターで知事が意識混濁状態であることを知り、「回復を待とうという気持ち」だった。

同会は、新基地建設の賛否を問う県民投票の実現に向けて約10万1千筆の署名を集めた。「知事に直接、請求書を手渡したかった」と悔しさをにじませた。

翁長知事と初めて言葉を交わしたのは2年前。当時所属していた学生団体「SEALDs (シールズ)」で翁長知事と意見交換したいと考え「話をしてほしい」と直談判。翁長知事からは「いつでも行くから声掛けてね」と温かい言葉を掛けられた。「結局その場は設けられなかった。選挙のこと、ウチナーグチのこと、いろんな話を聞いてみたかった」と語った。

沖縄平和運動センターの山城博治議長は、知事死去の一

報に、しばらく絶句。「回復して県民の前に立つ翁長さんの姿を思い浮かべていた。残念でならない」と声を震わせた。

思い返すのは「沖縄が自ら基地を提供したことはない」「必ず撤回する」と政府と対峙(たいじ)する姿。「もう一回元気な顔を見せて、群衆が沸き立つような言葉を投げてほしい。お別れの言葉はつらい」と繰り返した。「沖縄の誇りと勇気を持って立ち向かってほしいというメッセージを伝えなかったはず。思いを引き継ぎ、未来を開くため、努力を重ねていきたい」と決意を新たにされた。

「魂の飢餓感」翁長知事が訴えたこと 動画で振り返る
沖縄タイムス 2018年8月8日 22:55



2017年3月、辺野古のゲート前で開かれた集会に参加した翁長知事

膵臓(すいぞう)がんの治療中だった沖縄県知事の翁長雄志氏が8日、浦添市の病院で死去した。67歳だった。那覇市長を経て2014年の県知事選で初当選。米軍普天間飛行場の県内移設に反対する「オール沖縄」勢力をリードし、辺野古の新基地建設阻止を訴え続けた。基地問題で沖縄の思いが本土に届かない理不尽さを「魂の飢餓感」と表現した翁長知事。その軌跡を沖縄タイムスが撮影した動画で振り返る。

<2014年>沖縄県知事に当選

翁長氏が当選 沖縄県知事選挙 現職仲井真氏に大差 (2014/11/16)

<2015年>県民大会、国連で基地問題訴え

「ウチナーンチュ、ウシェーティナイビランドー」(沖縄の人をないがしろにするな)

3万5千人が参加した辺野古反対県民大会 (2015/05/17)

「辺野古の状況見てください」翁長知事、国連人権理で声明 (2015/09/21)

<2016年>米軍属事件の被害者を悼む

翁長知事「負けてはいけない」米軍属事件の被害者を追悼する県民大会 (2016/6/19)

<2017年>埋め立て承認撤回すると明言
翁長知事、辺野古に立つ 埋め立て承認撤回を初明言
(2017/03/25)

辺野古の海を守る 新基地反対県民大会 オスプレイに抗議
(2017/08/12)

<2018年>がん公表、承認撤回を表明
翁長知事が退院 腫瘍は膵がん 知事選対応は明言せず
(2018/05/15)

翁長知事「辺野古」阻止へ 埋め立て承認撤回を表明
(2018/07/26)

安室奈美恵さん、翁長知事死去受け追悼 「お悔やみ申し上げます」

沖縄タイムス 2018年8月9日 07:11

翁長雄志沖縄県知事の死去を受け、県出身の歌手、安室奈美恵さん（40）は9日、自身の公式サイトで翁長知事への謝意を伝え、冥福を祈る一文を寄せた。安室さんは今年5月23日、県民栄誉賞を翁長知事から贈られた。



県職員から贈られた花束を手に笑顔を見せる安室奈美恵さん＝5月23日、沖縄県庁

以下は公式サイトからの転載（改行など原文ママ）。
お悔やみ申し上げます
翁長知事の突然の訃報に大変驚いております。
ご病気の事はニュースで拝見しており、
県民栄誉賞の授賞式でお会いした際には、お痩せになられた印象がありました。
今思えばあの時も、
体調が優れなかったにも関わらず、
私を気遣ってくださり、優しい言葉をかけてくださいました。
沖縄の事を考え、沖縄の為に尽くしてこられた翁長知事のご遺志がこの先も受け継がれ、

これからも多くの人に愛される沖縄であることを願っております。
心から、
ご冥福をお祈り致します。
安室奈美恵